

理 事 会 議 事 録

日 時：1999年7月10日（土） 11時00分～15時00分

場 所：国立天文台 会議室

出席者：尾崎、家、小山、大石、立松、紀伊、

吉川、上野、有本、山岡、橋本、牧島

出席者12名 欠席者 3名うち委任状3名

議事に先立ち、署名人を選出した

議長：尾崎洋二

署名人：大石雅寿、吉川 真

議事の経過及び結果

1. 前回（1999年3月27日）の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 天文月報に掲載している広告を取りまとめている広告代理店である広和堂が3月末に倒産し、天文学会に未払いの広告費16万2000円が学会の債務となっている。これについては広告収入費の下方修正をすることとし、債務処理については事務長に一任することとした。
3. 学会刊行物に対する科研費として、学術定期刊行物への補助として380万円、二次刊行物への補助として194万円、公開講演会補助金として65万円が認められたことが大石庶務理事より報告された。
4. 学術会議会員、科研費審査候補者の選挙日程について大石庶務理事より報告があった。選挙管理委員会委員長は国立天文台の川村静児氏である。学術会議会員候補者の選挙は99年7月21日告示、9月20日公示、9月21日より11月7日に立候補者・推薦の受け付け、11月13日より12月12日投票、12月13日開票という手順で進める。同様に、科研費審査候補者の選挙は、7月1日に理事に投票用紙郵送、投票開始、7月15日投票締め切り、7月16日開票、7月19日に評議員に投票用紙郵送、投票開始、8月7日投票締め切り、8月9日開票、8月20日学術会議へ候補者リストの郵送及び理事長へ結果報告、という手順で進める。推薦人数は、第一段審査員候補8名、第二段審査員候補6名である。なお、科研費審査員名は科研費審査終了後公表可となった。科研費審査員候補の選択にあたっては、第二段候補者を先に決め、その後、第一段候補者を決めるという方針が確認された。また、科学研究費補助金に関して、「所轄機関が文部省から学術振興会に移管されることに伴い、国際学術研究と一般の基盤研究の重複申請が出来なく方針が出されているが、学術会議では、この件について善処を求める運動を展開中である。」との報告が家副理事長（天文学国際共同観測専門委員会委員長）よりあった。
5. 2000年度の学会事業計画案について大石庶務理事より説明があり、原案通り承認された。また、同年度収支予算案について立松会計理事より説明があった。収支予算案は、PASJ電子化キャンペーン等を考慮した案である。未収会費が多いので銀行自動引き落としキャンペーンをするなどの努力をすることが確認された。学術交流費については収入が減少しているので増やす方策、また、学生への旅費補助のあり方について議論があった。早川幸男基金については200万円を目安とするが柔軟に対応する方針が示された。その他の意見交換を行い、収支予算案は原案通り承認された。
6. 内地留学奨学金に関する内規の改定案、入会案内文の改定案、及び、委員会規定に関する内規原案が大石庶務理事より提示された。入会案内文については、原案から入会手続きの「中学生以上を対象とする」という文を削除し、団体会員の入会手続きを追加する。委員会に関する内規原案については各委員会委員長の意見も反映できるよう送付回覧することとした。なお、天体発見賞に関する細則の見直しは天体発見賞選考委員会で進行中であるとの報告もあった。
7. 99年秋季年会の申し込み・準備状況について吉川年会理事より報告があった。申し込み数は500を越えた。このためセッション会場は7つとなる。初の企画セッションは「宇宙ジェット」と「銀河形成」をテーマとして行う。特別講演は村上敏夫氏による「ガンマ線天文学のレビュー」、招待講演は韓国延世大学のナ・イルソン氏による「韓国天文学のレビュー」である。ナ氏には旅費と滞在費を支給する。

天文教育フォーラムは「OD問題の現状」がテーマであり、公開講演会は「宇宙観の移り変わり」という題で、宮島和彦氏と池内了氏が講演を行う。

8. 2000年の年会について吉川年会理事より説明があった。2000年春季年会については、牧島理事よりセッション会場として7つ確保する方針、ポスター会場を確保するために苦労していることが報告された。2000年春季年会で「ジュニアセッション」を開催したいと吉川年会理事より提案があり承認された。2000年秋季年会のポスター会場は非常に広いものが確保できていると橋本理事より報告があった。
9. 大石庶務理事より2001年、2002年の年会開催地ホストが以下のように報告され、承認された。

2001年春 千葉大学、2001年秋 西はりま天文台

2002年春 茨城大学、2002年秋 宮崎大学

10. 新入正会員の名簿が紹介され、55名全員の入会が承認された。
11. PASJの出版・電子化について、有本欧文研究報告理事より説明があった。欧文研究報告の機関購読契約数が291件になったこと、投稿数が大幅に増加していること、電子版PASJのミラーサイトを設置する交渉をしていること、すばるファーストライト特集およびなんてん特集を組むことを進めていること、が報告された。また、2001年度より機関購読料を2-3割値上げしたいこと、電子版PASJのHTML版に版については参照論文へのリンクを中心とした簡略版にしたいこと、PASJ若手賞を設けたいこと（応募者の掲載料を半額にする）の提案があった。HTML版については図・表を入れるたほうが有益であるとの意見があり、それを踏まえて検討することとなった。PASJ若手賞についてはさらに検討を重ねることとなった。
12. その他

(1) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定された。

理事会 : 1999年10月9日 (土)

評議員会 : 1999年10月8日 (金)

(2) 大石庶務理事より国立天文台総合情報棟の建設に伴い、現在の学会事務所がすばる解析研究棟1Fのデータアーカイブ室の一角に引っ越すことが報告された。引越し時期は8月11-12日である。

(3) すばるによって撮影された画像を絵葉書や名刺にし実費配布をすることが報告され、承認された。天文台側は画像提供を了承している。

(4) 会費金額については、会費納入時の身分で決まる額を入金してもらうことが確認された。

議長 尾崎洋二
署名人 吉川 真
署名人 大石雅寿